

生涯学習情報紙

2023



発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第350号

本(ふん)め読(ゆ)みい果てやねん

とうじ(妻)ととうじ(杜氏)の関係は？

今回は、「酒」のことを「セヘエ」ということについて述べさせていただきましたが、紙面の都合上載せることができなかった「とうじ(妻)」と「とうじ(杜氏)」の関係について書かせていただきます。

奄美では、「妻」のことを「とうじ」と言い、「刀自」と表しますが、それは平安時代には日本のあらゆる所で使われていた古語(万葉語)です。では、「とうじ(杜氏)」との関係ですが、昔は各家々で味噌や醤油などと同じように酒も造っていました。その味は“門外不出”とは大袈裟ですが、各家々で代々大切に受け継がれていました。しかし、酒席で「この酒、旨いね。どうして造った？」と尋ねられたり、酔いが廻り饒舌になると男の人はその秘伝の造り方を他人に簡単に喋ってしまうので、酒造りは「妻(とうじ)」が適任だったのです。そんなことから、酒造りをする上で重要な役であるその係のことを「とうじ」と呼び、「とうじ(杜氏)」と表すようになったそうです。この話を聞いて、河島英五さんの「♪また一つ女の方が偉く思えてきた…」の歌が聞こえてきました。昔の言葉が現在でも普通に使われている奄美はまさに“日本の古語の宝庫”だと言われているのを実感しました。

話は変わりますが、昨年1月にトンガ諸島の海底火山の噴火により緊急津波警報や避難指示が出され、慌てふためきましたね。津波もですが「地震」も怖いものです。「地震」は、方言でも古語でも「なみ」と言うようです。残念ながら、日常では殆ど聞かないですね。

みなさん、絶滅の危機にあると言われている島口(奄美語)に誇りをもち、「習うより慣れろ！」で、シマ口が飛び交う奄美にしていきたいと思います。

2月18日は”大島地区方言の日”

2月18日(土)は、大島地区”方言の日”です。由来は、与論町(ユンヌ)の言葉(フトゥバ)という意味です。2(フ)10(トゥ)8(ハ)の語呂合わせで2月18日となっています。大島地区でも「シマユムタの日」となっています。大和村教育委員会で平成28年当時に”先人の教訓に学ぶ”島口カレンダーを作成して村民全世帯へ配布し島口の普及を啓発しました。しかし、コロナ感染症拡大による地域行事の中止により、八月踊り等の継承も危うい状態になりつつあります。この機会に方言を少しでも使いたしましょう。

令和4年度公民館講座閉講式開催

令和5年2月19日(日)13時30分より令和5年度公民館講座の閉講式を大和村防災センターで開催いたします。当日は、作品展示や各講座の舞台発表会を行います。隣近所お誘いながら御鑑賞下さい。



令和5年 二十歳の集いについて



令和5年二十歳の集いを、1月4日に開催しました。14名(男7名、女7名)が出席し、保護者や多くの来賓の方々に見守られながら、晴れの門出に飛躍を誓いました。二十歳の集いでは、参加者が一人ずつ自己紹介を行った後、出席者を代表して森岡敬司さん(大和浜出身)が「学生時代にコロナ感染症拡大で目標や日常を失った事と母を亡くした事などを振り返り、親孝行や目標を成し得なかった事を後悔をするのではなく、今まで成長を支えてくれた家族や恩師、大和村をはじめとする地域の方々へ感謝の心を持ち、必ず何かの形で恩返しをしたい。」と前向きな決意を述べました。最後に、それぞれ記念写真を撮り合い、終始賑やかに行われました。二十歳の皆様の活躍を期待します。令和4年4月1日より成人年齢が18歳に引き下がりましたが大和村では、今後もこれまでどおり20歳を対象に「二十歳の集い」を開催します。

書き初め教室を開催

令和5年1月6日(金)に、冬休みの学習教室で「書き初め」を実施しました。当日は、多くの小学生が参加しました。御協力いただきました講師の森永先生、徳先生、村内の学校の先生方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。先生方に「しっかり止めるといいよ。」「集中して書こうね。」など、助言をもらいながら、子どもたちは、楽しそうに笑顔で、納得のいく作品を書き上げることができました。これからも、書き上げた書き初め作品のように、夢を信じて、新たな決意に向かって頑張ってください。

